

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年前期	3	2	選択
担当教員			
脇坂 圭一			
添付ファイル			
講義概要	建築とは社会的な制度を視覚化した人工環境と言える。建築設計がモノ（ハード）のデザインとすれば建築計画はヒト（ソフト）のデザインと位置づけられる。建築計画1に引き続き、建築計画2では、パブリック性の高い各種施設計画の建築プログラムを扱い、空間構成とそこで行われるアクティビティ（使われ方）の関係を代表的な事例を通して理解する。その上で、単体施設のみならず、複合施設の建築設計に反映させる能力を養う。 キーワード：ビルディングタイプ（用途）、建築プログラム、施設 この科目は、建築設計分野の実務経験のある教員が担当する。		
授業計画	1 福祉施設1 ・日本の人口の現状と将来予測、地域包括ケアシステム、ケアサービスと施設、高齢者施設の概要、サービス付き高齢者住宅、高齢者施設の個室化・ユニット化、福祉施設事例1（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 ・AL①は全回、AL④は発表およびレポート提出が対応する旨の説明 2 福祉施設2 ・障害者施設の概要、障害者に関する制度、障害者に関するサービス、福祉施設事例2（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 3 福祉施設3 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 4 事務所1 ・執務空間の歴史、計画目的と方針、配置と主動線計画、基準層のコアの配置、次世代を見据えたグレードの設定、知的生産性とWell-being, Activity Based Working (ABW) (AL①) ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 5 事務所2 ・高層ビルのエレベーター計画、エレベーターの運行方式、事務所事例（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 6 事務所3 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 7 交流施設1 ・交流の種類、地域と集団のスケールによる施設の分類、設置・運営の形態、施設複合の型、内部空間形式の標準型と多様性、拠点としての場所性、ユーザーとの対話による設計と運営関与、公民館の成立と変遷、現代の公民館（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 8 交流施設2 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 9 展示施設1 ・博物館の種類と設置者、博物館数と規模の傾向、諸室の計画、博物館の役割とその変化（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 10 展示施設2 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 11 芸能1 ・劇場法の成立、舞台と客席の関係、芸能空間の変遷、演劇空間、音楽空間、伝統芸能空間、設置者および客席数、開館年と面積、諸室の計画、プロセニウムステージの構成、可視限界距離 12 芸能2 ・チェックすべきサイトライン、オーディトリウムの音響計画、演奏空間の寸法と面積、音響反射板の設置方式、多目的ホール、能舞台の寸法と名称（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。		

	13 芸能3 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 14 公共サービス施設 1 ・公共サービス施設の役割、求められる防災機能、津波被害の対策、庁舎施設の空間構成、庁舎の機能と関連諸室、施設規模の算定方法、議場、窓口・行政機能（AL①） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 15 公共サービス施設2 ・事例発表、質疑応答（AL①）（AL④） ・【予習・復習】あらかじめテキストの該当項目のページを読み、図書館にて該当する建築家、作品の書籍に目を通すこと。 16 定期試験
授業形態	各回の講義を主としながら、グループ毎に事例発表を行う。加えて、レポート課す。 アクティブラーニング：①：15回, ②：0回, ③：0回, ④：6回（発表・レポート）, ⑤：0回, ⑥：0回
達成目標	(1) 建築計画・設計の前提となる様々なビルディングタイプ（用途／建築プログラム）（具体的には、福祉施設1（通所施設）、福祉施設1（入所施設）、事務所、博物館・美術館1、劇場・ホール、公共サービス施設、交流施設）について理解する。 (2) 建築計画・設計の前提となる様々なビルディングタイプ（具体的には、福祉施設1（通所施設）、福祉施設1（入所施設）、事務所、博物館・美術館1、劇場・ホール、公共サービス施設、交流施設）の機能、空間構成、構法といったハードの側面について理解する。 (3) 建築計画・設計の前提となる様々なビルディングタイプ（具体的には、福祉施設1（通所施設）、福祉施設1（入所施設）、事務所、博物館・美術館1、劇場・ホール、公共サービス施設、交流施設）の使われ方、アクティビティ、運営体制といったソフトの側面について理解する。 (4) 様々なビルディングタイプ（具体的には、福祉施設1（通所施設）、福祉施設1（入所施設）、事務所、博物館・美術館1、劇場・ホール、公共サービス施設、交流施設）について、ハードの側面およびソフトの側面から、統合的に建築空間を理解する。
評価方法・フィードバック	試験（80%）、発表・レポート（15%）、出席（5%）を総合評価する。原則として、レポート・小テスト等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。
評価基準	総合点が100点満点で60点以上の者に単位を与える。 秀（1～4）：100～90点、優（1～3）：89～80点、良（1～3）：79～70点、可（1、2または3）：69～60点、不可：59点以下
教科書・参考書	教科書：日本建築学会編『コンパクト建築設計資料集成』、小野田泰明『プレデザインの思想 建築計画実践の11箇条』TOTO出版 参考書：ウィリアム・ペーニャ、ステイブン・パーシャル『プロブレム・シーキングー建築課題の発見・実践手法』彰国者、五十嵐太郎、大川信行『ビルディングタイプの解剖学』王国社
履修条件	1. 「建築計画1」を履修していること。 2. 「近代建築史」を履修していること。 3. 「建築設計・基礎」「建築設計A1」「建築設計A2」を履修していること。
履修上の注意	1. 本講義と建築設計課題は密接に関連するので、プレ・デザインとしての建築計画と実際にカタチに落とし込む建築設計の応答関係を意識して取り組むこと。 2. 日常における建築と社会の関わりを知るために、意識的に新聞や建築雑誌等の情報に触れ、建築計画的な視点から考察すること。
準備学習と課題の内容	1. 授業計画に記載されている同種の用途について、学内・学外の図書館にて、国内外の雑誌・書籍から、プログラムおよび配置計画・平面計画・断面計画を、図面・写真から調べる（合計3.0h）。 2. 国内はもとより海外も含めた積極的な事例訪問と空間体験を推奨する。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:40%, 思考・判断:30%, 関心・意欲:15%, 態度:10%, 技能・表現:5%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	